

北部地方振興事務所 NNだより

青生地区

目次

- 石母田ふるさと保全会 間伐材で足場ステップ作り——1page
- 小学生・高校生の体験活動・学習会——2page
 1. 田植え体験(色麻小学校・宮崎小学校)
 2. 清水川北浦 生き物調査
 3. 小牛田農林高等学校 農業農村整備事業学習会
- 鶴田川沿岸と手樽土地改良区の合併へ、統合整備推進協議会の設立総会の開催——4page
- 大崎地域の農業・農村に関する郷土研究講座キックオフミーティングの開催——4page
- 新規採用職員の紹介——5page
- 大崎地域の世界農業遺産(GIAHS)登録に向けた取組み——5, 6page



青生地区 ジャガイモ畑

石母田ふるさと保全会 間伐材で足場ステップ作り

平成28年4月27日、多面的機能支払の活動組織である「石母田ふる里保全会（加美町宮崎）」が、維持活動時の安全対策として地元林の間伐材を利用して排水路の法面に草刈り用の足場ステップを設置しました。



▲雪折れした杉の木をチェーンソーで切ります



▲木の皮を剥いだあと、防腐剤を塗ることで雨や虫による傷みを防ぎ、5年程使えます



▲足場ステップを使って草刈りをしている様子です

小学生・高校生の体験活動・学習会

1. 田植え体験

【色麻小学校】

平成 28 年 5 月 13 日、色麻町立色麻小学校の 5 年生 76 名が学習田で田植えを体験しました。生徒のみなさんは、色麻土地改良区、色麻町農業委員会、色麻町公民館、農業生産法人あぐりカップ、地域農家の方々から苗の植え方の指導を受けながら、田植えを行いました。このような体験学習は色麻土地改良区の 21 創造運動の一環として 10 年ほど前から行われています。



▲「枠廻し」を使ってまっすぐ苗を植えるための印を付けています



▲餅米の“みやこがね”を植えました

【宮崎小学校】

平成 28 年 5 月 30 日、「石母田ふる里保全会（加美町宮崎）」が多面的機能支払活動の一環として、加美町立宮崎小学校の 6 年生 18 名を対象に、水田の生態系や環境保全活動に関する学習会を開催しました。このような体験学習は平成 19 年から行われており、今年で 10 年目となります。



▲“ひとめぼれ”を植えました



▲めだかが生息するビオトープに苗を「投げ植え」し、めだかの産卵場所をつくりました

2. 清水川北浦 生き物調査

平成 28 年 6 月 4 日、清水川北浦地区において生き物調査（親子体験教室）が実施され、北浦小学校の児童 14 名とご家族の方総勢 18 名が参加しました。今回の活動は多面的機能支払活動の一環として、北浦中広域協定運営委員会主催のもとに行われました。



▲水路に入り、生き物を探している様子



▲調査の結果、ザリガニやヌカエビ、アブラハヤなど様々な生き物が見つかりました

3. 小牛田農林高等学校 農業農村整備事業学習会

平成 28 年 6 月 28 日、小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの 2 年生を対象に農業農村整備事業学習会を開催しました。この学習会は農業土木コースで学ぶ高校生に農業農村整備への理解を深め、学習に役立ててもらうため、平成 18 年度から毎年開催しているものです。

今回の学習会では、二ツ石ダム（加美町宮崎）と桑折江頭首工（大崎市三本木）を見学し、農地用水や農業水利施設の役割を学びました。また、農地整備事業を実施している青生地区を見学し、ほ場整備の効果などについて学びました。



▲二ツ石ダム 管理棟



▲二ツ石ダム 集合写真



▲桑折江頭首工 ゲート操作室



▲農地整備事業 青生地区

鶴田川沿岸と手樽土地改良区の合併へ、統合整備推進協議会の設立総会開催

平成 28 年 5 月 30 日に、鶴田川沿岸土地改良区と宮城郡松島町手樽土地改良区の統合整備（合併）に向けた、統合整備推進協議会の設立総会が松島町役場において開かれました。

この協議会では、両土地改良区管内の農業農村の将来的発展や、土地改良区の運営基盤強化、組合員の負担軽減に向けた協議を重ね、平成 29 年度の合併を目指していく予定です。



▲設立総会の様子

受益面積と組合員数（2016 年 6 月 1 日現在）

	受益面積	組合員数
鶴田川沿岸土地改良区	2,633ha	1,749 名
宮城郡松島町手樽土地改良区	192ha	207 名
計	2,825ha	1,956 名

合併後の全体の受益面積は 2,825ha、組合員数は 1,956 人となる予定です。当部におきましても、両土地改良区の統合整備を今後とも支援していきます。

大崎地域の農業・農村に関する郷土研究講座キックオフミーティング開催

平成 28 年 7 月 7 日、大崎地域の農業・農村に関する郷土研究講座キックオフミーティングが開催されました。この講座は入庁 5 年目程度までの若手職員 20 名が中心となって調査・研究活動を行うものです。キックオフミーティングでは、参加者自己紹介、講座概要についての説明を受けました。講座の意義、調査研究テーマは下記のとおりで、来年 1 月には報告会も実施される予定です。

講座の意義

- 1) 産業行政に携わる職員が日々の業務の中で地域の歴史に触れることで地域振興業務の深み、情報収集能力の向上が期待できる。
- 2) 県政、市町村行政、コミュニティ分野で活躍できる資質・能力を向上させる。
- 3) 世界農業遺産登録・推進に向けて、職員に対しての認識を向上させる。

調査研究テーマ

- ① 中世大崎氏の統治と伊達政宗探訪
 - ・天正 16 年大崎合戦を中心に現地訪問（三本木，中新田，宮崎）
 - ・奥州仕置きにより縄張りにされた岩出山城（岩出山）
- ② 積極的に行われた新田開発探訪
 - ・伊達騒動（寛文事件）の舞台（涌谷・桃生）
 - ・品井沼干拓と元禄・明治潜穴（鹿島台・松島）
- ③ 温泉開発と仙台藩境の山の暮らし探訪
 - ・鳴子温泉街の歴史と生活文化（鳴子）
 - ・仙台藩境の警備と山の暮らし（鬼首）



▲所長講話



▲自己紹介

NN 新規採用職員の紹介

よろしくお祈いします！！



管理指導班
主事 森 進



計画調整班
主事 石川まどか



農地整備第五班
技師 引地 達也

大崎地域の世界農業遺産(GIAHS)登録に向けた取組み

平成 28 年 6 月 24 日，大崎地域世界農業遺産推進協議会の本年度 1 回目の協議会を開催し，農林水産省に提出する申請書のタイトルを「『大崎耕土』の巧みな水管理による水田農業システム」とすることに決定しました。7，8 月には，地域住民対象の勉強会を 3 回開催し，それらの意見も踏まえ，9 月上旬での協議会での承認後，9 月末までに申請することとしました。

宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号（宮城県大崎合同庁舎内）

TEL 0229(91)0701(代)

FAX 0229(23)5014

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>

編集：計画調整班



「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システム

「やませ」による冷害や洪水、渇水のリスクが高い厳しい自然条件を、「巧みな水管理」と土地利用で克服し、豊かな水田農業と湿地性生態系、伝統文化を引き継いできた水田農業システム

屋敷林「居久根」と水田、水路、ため池が織りなすモザイク的土地利用

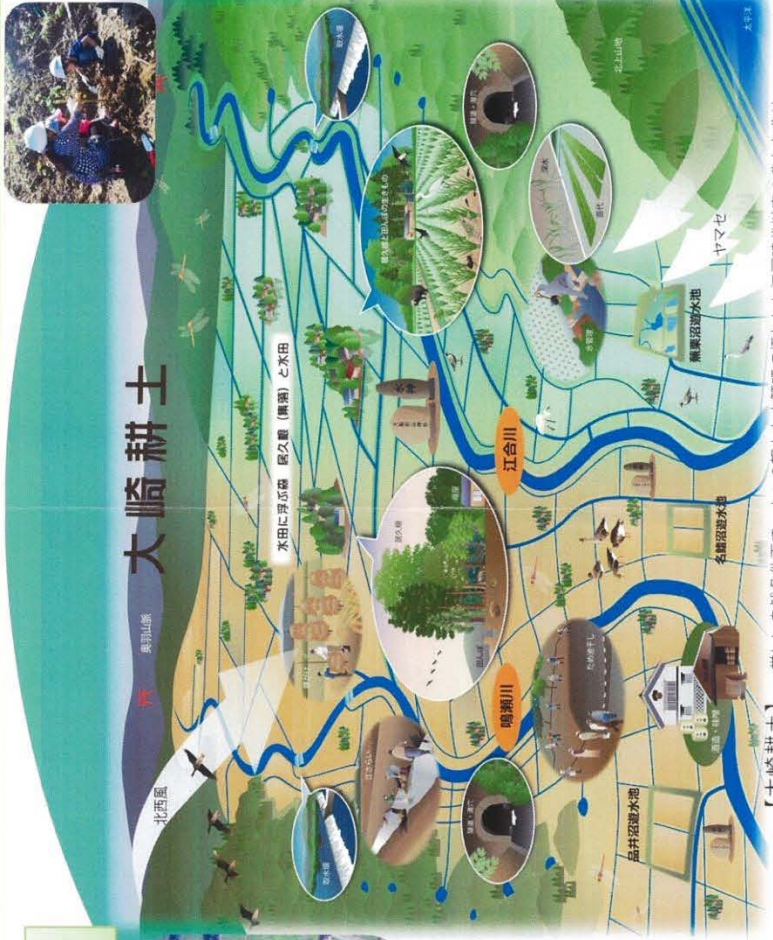


里地里山の水田農業と水田の上にはバッチ状に点在する居久根が、水路によるコリドー（回廊）でつながる土地利用

水田農業と生態系との共生関係



独特のランドスケープの多様性が残ることやトンボ、クモなどの生物保全され、水田農業と共生環境が



巧みな用排水の確保利用



1600年代から取水堰や隧道・潜穴、ため池などによる灌漑・排水

冷害を克服する水を活かした農法



深水・晩期栽培・屋間止水等の農法

遊水地によるしなやかな水管理



- 多様な農作物を用いたもちや食や発酵醸造などの食文化、農家の湯治文化
- 農耕儀礼、芸能など、豊かでも様々な伝統文化
- 契約講 相互扶助組織による農村の絆

伝統的な農文化(食や農耕儀礼)

